

大教安心論概略 田中知邦著 完

館			
函	六	一	一
架	架	六	七
號	七	九	函
冊	號	架	冊

特35
761
四
一
本

014346-000-4

特35-761

大教安心論概略

田中 知邦/著

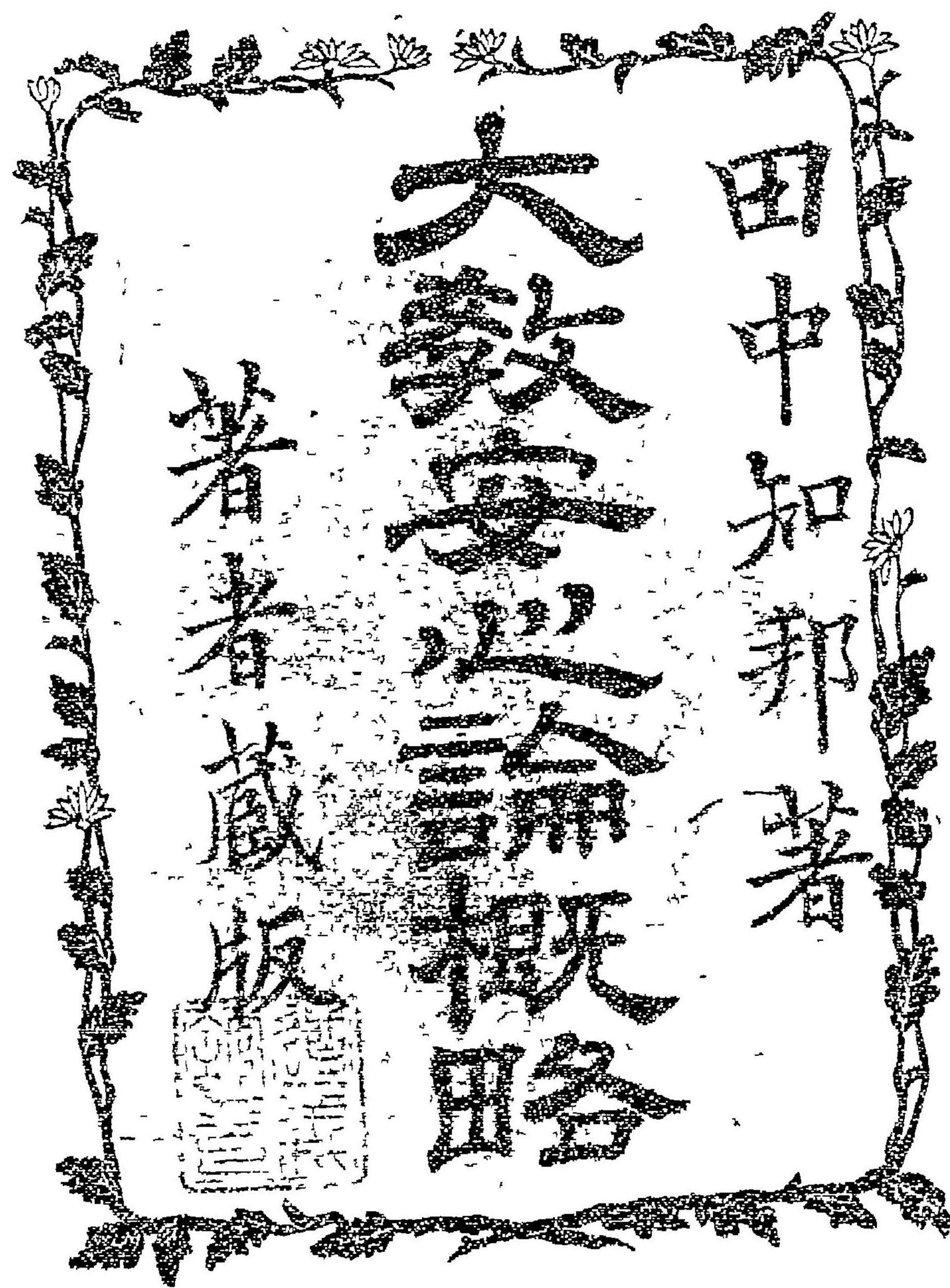
M9

ABB-0697



特35

761



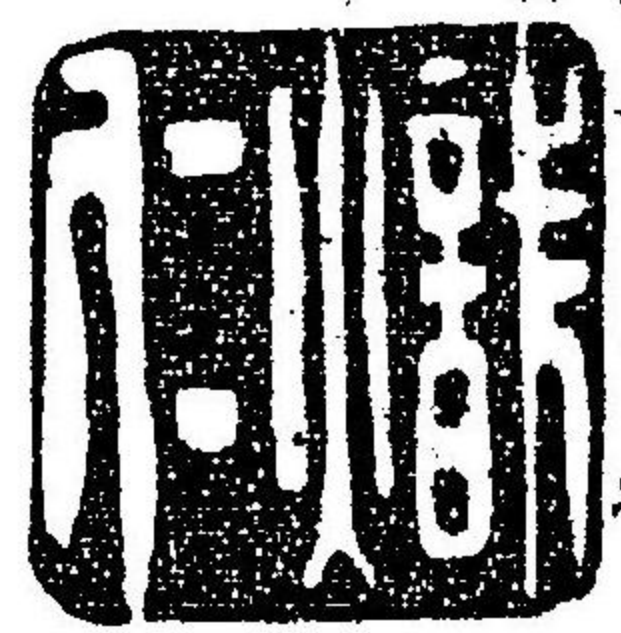
特35
761



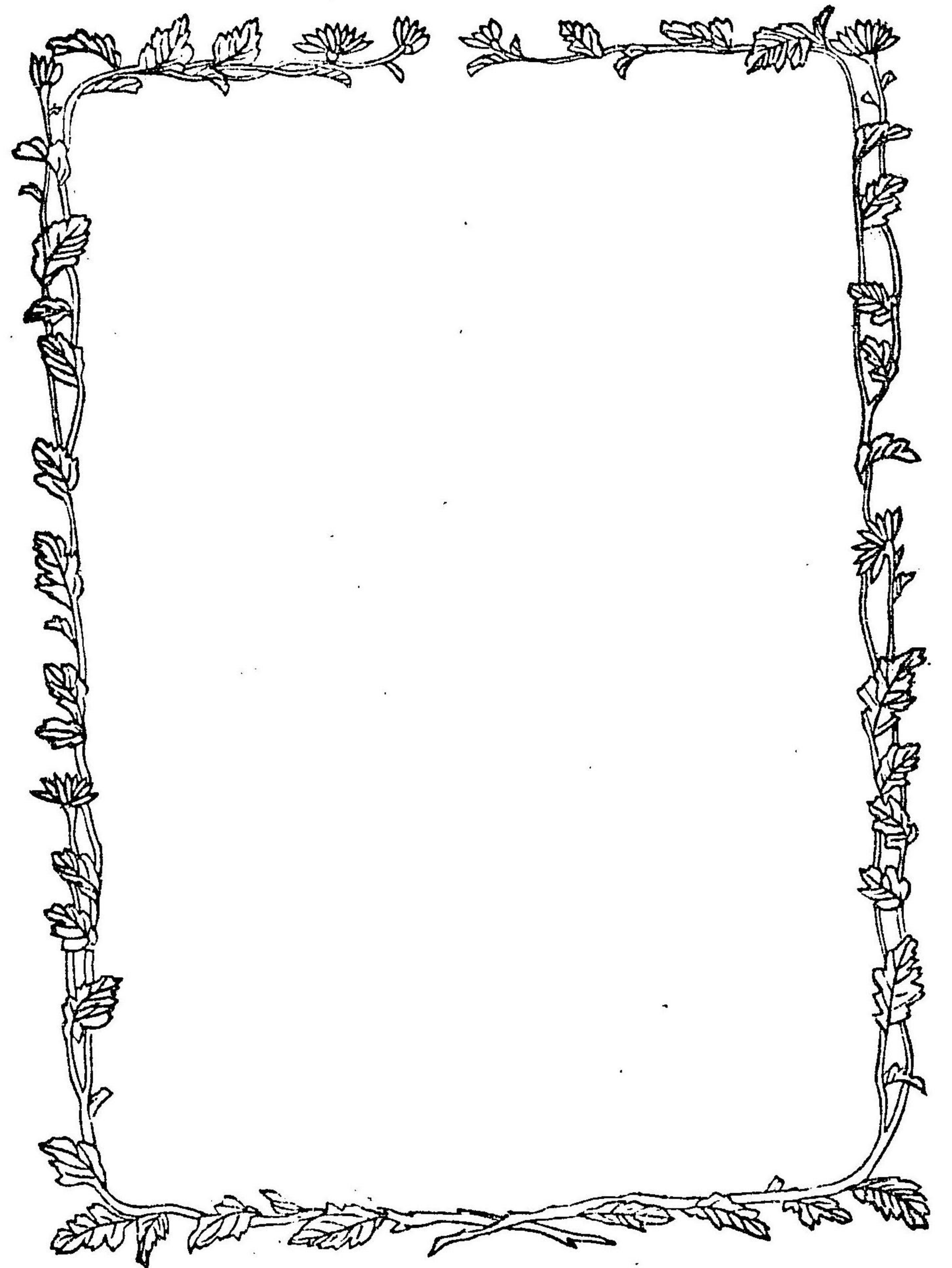
神

明治九年夏八月

高親煥之書



佐理 毛登寐 刀



互茂覺
低母賴

年哉
愚奈幼田

身乎神
爾任世

天

書新拾遺集所載
藤原雅朝之詠歌以

應需

明治九年第八月

大教正從四位從四位稻葉正邦



大教安心論板墨序

皇極天皇の御代此體統に被方乃阿波

野江雅也より是より我より後一かど人哉

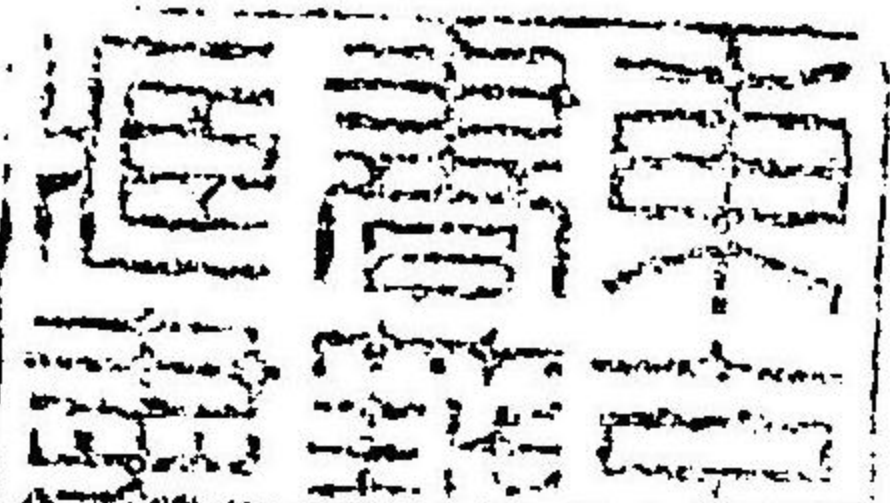
勅をよと賤るゝ實に天靈大神のま道

を義に悟得する人乃我にこそ流し處

時の事には果然なるのみありは天地

は共古に山神なるも幽政乃我に為也

此歌の意れぬくまらざるハ合をぬ理



夫を能く阿耨多羅三藐三菩提の此大神の
 慈悲此大神を宰治する人を知るに
 る者あるもいふも要らざる一方向に累教
 の種よりさばりては、胎鬼の氣吹に瘵
 果て何事も此世より人と生れざる者此
 禽獸草木と云ふ空しく朽果あるも即
 ち碎生復死とも名づく處を物よりして
 中より心若しく云むまへてなきわびり

夫を有ける爰に日吉神社少宮日天護
 兼田中知邦の著する大神教の
 論より末本教の旨を言及し鏡の言解り
 規正するも書はるるおふき一はく出
 心の道志の處を言及し照鏡の物せしむる
 るに此規正の言及に於ては、たゞ
 其被りし由種を正道あると思惑する人
 の言及し、大直日神の言及し、直陸の慈悲

の果も畏き理を以て憚るに當り母を以て
 も悔むに極むるに可なりと思ふ事多し極
 り今此書の權を以て之を以て終る事多し
 云を以て之を以て終る事多し
 大教

明治九年二月十七日

神宮大司權大教正田中頼庸

松本正利書



大教安心論概略

日吉神社少官司兼大講義田中知邦謹述

明治九年圖書局發行

天地之間ニアル物一トシテ終始アラザルナク
 本末アラザルナシ草木ニ於ケル種子ハ本ニシ
 テ幹枝ハ末ナリ花ノ咲クハ始メニシテ散ルハ
 終リナリ人ニ於ケル亦復然リ父祖ハ本ニシテ
 子孫ハ末ナリ生ハ始メニシテ死ハ終リナリ自
 余ノ萬物モ亦斯ノ如シ始メアレバ必ズ終リア
 リ本アレバ必ズ末アリ然レバ生アル者死ナキ
 能ハズ是造化自然ノ理ニシテ古今後來決シテ

止ムコトヲ得ザルナリ人ノ死ヲ免レザルハ猶花
ノ散リ葉ノ落ルヲ免レザルガ如シ縦今人ノ長
壽ヲ得ルモ百年ヲ過グル稀ナレバ人タル者長
幼老若ノ差別ナク死ノ覺悟ナカルベカラズ
六三〇年ノ壽ヲ得ルモ全ク死ノ覺悟ナカルベ
千六百三十七日ノ壽ヲ得ルモ全ク死ノ覺悟
ノ壽者ノ數ニ對シテ一人ノ壽ノ覺悟ナカル
壽者ノ數ニ對シテ一人ノ壽ノ覺悟ナカル
反始ノ理ヲ備ヘザル者ナシ草木ハ種子ヨリ生
ト出テ漸次成茂シテ花咲キ實ヲ結ビ而シテ其
實マタ種子トナリ終ニ水ニ復ス又水蒸氣ハ地

ヨリ昇リテ雨水トナリマタ降りテ地ニ歸ル又
地球ハ西ヨリ東ニ環リ終ニマタ西ニ復ル人モ
亦斯ノ如キナレバ其死後ヲ明知セント欲スル
必ズ先其始メタル生前ヲ繙譯推考セザルベカ
ラズ孔子モ季路ノ死ヲ問ヒシ答ニ「未だ知生焉知
死ト云ヘリ始メテ原ネテ終リテ知リ流レニ浴
フテ源ニ流ルベシ夫人ノ斯世ニ生レ出ルヤ其
靈魂ハ造化神ノ賦與スル所ニシテ形體ハ父母
ノ生ム所ト雖モ其原ヲ推究スレバ形體モ亦尚
神ノ生成スル所ニアラザルナク神ノ恩頼ニ依

ラザルナシ何トナレバ父母ノ子ヲ生ム男ヲ欲
 スルモ女ヲ得女ヲ欲スルモ男ヲ獲強ヲ欲スル
 モ弱ヲ得美ヲ欲スルモ醜ヲ獲ル如キ必ズ父母
 ノ意ノ如クナラズ是神ノ父母ヲシテ産マシム
 ル所以ナリ又此身ノ本元ヲ温ヌルニ父母ノ父
 母マタ其父母ノ父母ト溯リ究極スレバ遂ニ孰
 ノ人モ其祖先ニナ神ニアラザルナク造化ノ主
 宰天御中主大神ニ歸セザルナシ抑御中主大神
 ハ全知全能ニシテ造化ノ神徳ヲ總備ヘ給ヒ無
 始無終ニシテ宇宙ノ萬神萬類一切ノ大元始祖

ナリ故ニ斯大神ノ靈徳ハ大圓虛空中ニ遍滿彌
 綸シテ在ラザル所ナク至ラザル所ナシ假令洪
 大ナル日月星辰モ微細ナル虫魚草木モ悉皆此
 大神ノ造化ニ資ラザルナシ是故ニ斯大神ヲ稱
 シテ造化ノ主宰ト云ヒ又天祖ト云フ然レバ世
 界萬國ノ兆民悉ク斯大神ノ後裔ニシテ生ヤノ
 理ハ皆神ノ統轄ナルヲ知ルベシ既ニ之ヲ知レ
 レバ死モ亦委託セザルベカラズ故ニ源深法印
 モ後世モ此世ニ神ニまかざるや愚カる身ノ
 大此みなるらむト詠ミ置ケリ實ニ生々ノ理ハ

幽冥ニ屬ヒテ神ノ處置ニ出レバ倘使英俊豪傑ト雖モ顯明ノ人ノ智カヲ以テ奈何共爲スベカラズ西洋諸州ノ博學多才ナル究理家モ彼氣車電線ノ如キ人目ヲ驚スベキ器械ノ製作ハ能ク發明スルト雖モ假初ニモ人ヲ造リ或ハ男ヲシテ女ナラシメ女ヲシテ男ナラシムルノ理ヲ究ムル能ハズ又彼扁鵲ノ如キ名醫モ死ニタル人ヲ活カシ或ハ不老不死ナラシムル能ハズ尤古今名醫ノカト奇藥ノ効トニヨリテ蘇生スル者往々ナキニアラザレモ是等ハ皆未ダ全ク生命

ノ盡キタルニ非ルガユエナリ何トナレバ古今内外トモ名醫奇藥ナキニアラズト雖モ未ダ其醫藥ノタメニ万古無窮ノ長壽ヲ有チレ者アルヲ聞カズ適長壽ヲ得テ百年以上ニナリシ人ヲ見ルニ大抵其性質剛強體格健全ノ致ス所ニシテ醫藥ノタメニ長壽ナル者甚ダ稀ナリ顯明ノ人ノ智カヲ以テ性命ヲ制スベカヲザル此ノ如シ夫人ノ形體ハ胎ヲ父母ニ受テヨリ日ヲ積ミ月ヲ重ヌルニ從ヒ漸次成長レ終ニ十月ニシテ五臟六腑四肢百骸ヲ具足レ母ノ體内ヲ離レテ

皇子波云云 天原石門乎開神上上座奴マタ弓削
 皇子薨去ノ時 此皇太子武天皇ノ三弟也 置始
 東人ノ詠ミシ 歌ニ王者神西座者天雲之五百重
 之下爾隱賜奴ハ略解ズ上ノ五百重ノ下ノ字
 アリ又續日本後紀淳和天皇ノ詔ニ予聞人没精
 神敏天トアルヲ以テ見レバ人魂ノ天ニ復歸ス
 ル其正傳ノ太古ヨリアリシト著明ナリ蓋是天
 祖皇祖ノ定メ給ヒ捉テ給ヒシ所ニシテ所謂爾
 ニ出ヅル者ハ必ズ爾ニ反ル其理豈疑ヲ容ルベ
 ケンヤ 斯人魂ノ本心ハ 誠理ノ如ク天ニ歸ル
 子若クハ 孫ハ 織心ヲ疑レテ招キ祀ルモ

ハ 靈屋或ハ墓所ニ 是ニ其ノ魂ヲ留メテ 欲スル
 又ハ 自ラ其ノ魂ヲ留メテ 欲スル 心切リ
 ナルニ 出テ 其ノ魂ヲ留メテ 欲スル 心切リ
 天宮ハ 出テ 其ノ魂ヲ留メテ 欲スル 心切リ
 本宮ハ 出テ 其ノ魂ヲ留メテ 欲スル 心切リ
 フガ如シ 又ハ 出テ 其ノ魂ヲ留メテ 欲スル 心切リ
 セザルハ 猶又 出テ 其ノ魂ヲ留メテ 欲スル 心切リ
 テザルハ 猶又 出テ 其ノ魂ヲ留メテ 欲スル 心切リ
 其所行善惡邪正一ナラザレバ 死後其靈魂ノ本
 元ニ復歸スルモ 亦各遲速不同アルベシ 其在世
 中神ノ教ニ背キ人ノ道ヲ守ラズ 惡逆ノ所業ア
 リシ者ハ 死後其靈魂大地ノ幽府ニ止リ 神罰ヲ
 受ケ種々ノ苦役ニ服シ 其罪科ヲ贖ヒ盡スニア
 ラザレバ 本所タル天ニ復歸スル能ハズ 尤其惡

逆ノ至重ナルニ至リテハ其魂獨リ苦役ヲ受ク
 ルノミナラズ其惡報子々孫々ニモ受ケザルヲ
 得ザルベシ又在世間神ノ教ニ從ヒ人ノ道ヲ誤
 ラズ君ノタノ親ノタメ善事良行アリシ者ハ世
 ヲ辭スルヤ其靈魂直チニ本所タル天ニ歸リ種
 々ノ歡樂ヲ受クルナリ尤其善良ノ至廣至大ナ
 ルニ至リテハ其魂唯リ歡樂ヲ極ムルノミナラ
 ズ其善報百世ノ子孫ニモ傳フルヲ得ベシ人智
 限リアリテ顯世ヨリ幽界ノ事固ヨリ窺ヒ知ル
 所ニアラズト雖モ賞罰ノ理ハ幽顯一致ナレバ

顯世中所爲ノ邪正所行ノ善惡功勳ノ有無即幽
 界ノ鏡タリ然レバ各平素履行スル所ヲ千思万
 慮シテ死後ニ至リ在世ノ過失ヲ悔イザルヲ期
 スルヲ緊要ナリ在世ノ所行ヲ死後ニ至リ幽府
 ノ神法ヲ照シテ善惡ヲ審判シ賞罰ヲ與ヘ給フ
 ハ人ヲシテ人タラシメ魂ヲシテ神タラシメ給
 フノ神算ニ出テ、所謂人世ヲ維持シ給フノ天
 憲ト云フベシ凡犯罪ノ目千緒万端アリト雖モ
 概ネ隱顯ノ二ヲ出デズ其顯罪ニ知リテ犯セル
 罪ト思ハスシテ爲セル科トノ別アリ思ハズシ

テ爲セル科ハ所謂過誤失錯ナル者ニシテ輕ク
 知リテ犯セル罪ハ所謂有心故造ナル者ニシテ
 重シ其隱罪ニ知リテ犯スト雖モ露レザル罪ト
 犯スト雖モ自ラ知ラザル科トノ差アリ犯レテ
 知ラザルハ顯罪ノ過誤失錯ト同ク其科輕ク犯
 レテ露レザルハ顯罪ノ有心故造ト同ク其罪重
 シ日本紀纂疏ニ人爲惡於顯明之地則帝王誅之
 爲惡於幽冥之中則鬼神罰之爲善獲福亦同之ト
 アルガ如ク犯罪ノ顯ニ關スル者ハ朝廷之ヲ罰
 シ隱ニ係ルモノハ冥府之ヲ誅ス然リ而シテ冥

府ノ之ヲ誅レ朝廷ノ之ヲ罰レ給フハ其罪ヲ憎
 ミ給フニテ其人ヲ惡ミ給フニアラズ故ニ朝廷
 ニハ毎年六月十二月ニ大赦ノ大典ヲ擧ゲテ天
 下兆民ノ隱罪ノ犯シテ知ラザル科ヲ被ヒ贖ハ
 シメ給ヒ又顯罪ノ知リテ犯セル罪ト雖モ先非
 ヲ悔イ前罪ヲ悟リ官廳ニ自訴スル者ハ重キハ
 刑律ノ等ヲ減シ輕キハ罪科ヲ悉皆赦免シ給フ
 冥府ニ於テモ亦尚然リ神慮固ヨリ公平無私故
 ニ一旦罪過アル人ト雖モ舊過ヲ悔イ前罪ヲ悟
 リテ善ニ遷リ或ハ悔悟以前ニ死スル者ト雖モ

其子孫若クハ兄弟若クハ夫妻之ニ代リ至誠ヲ
 盡シテ罪過ヲ欽謝スル片ハ神祇之ヲ宥恕シ給
 フナリ大國主神ノ冥府ニ在リテ幽世ヲ統領シ
 氏神産土神ノ所々ニ在リテ幽事ヲ分司シ給フ
 ハ猶太政官アリテ天下ヲ統轄シ國々ニ地方官
 アリテ大政ヲ分掌スルガ如シ夫靈魂ノ一身ヲ
 主宰シ耳目鼻口手足ヲ使役シテ以テ百般ノ事
 務ヲ辨ズル如キ道ヲ行カント欲スレバ足即歩
 シ物ヲ取ラント欲スレバ手即採リ理ヲ言ハシ
 ト欲スレハ口即言ヒ香ヲ嗅ガント欲スレバ鼻

即嗅ギ色ヲ視ント欲スレバ目即視聲ヲ聞カン
 ト欲スレバ耳即聽ク又百事善ヲ爲サント欲ス
 レバ善ヲ爲シ惡ヲ爲サント欲スレバ惡ヲ爲ス
 其運用ノ自由自在ナル實ニ神ノ賦與シ給フ所
 ノ者ニ非ザレバ何ゾ能ク斯ノ如キ妙用ヲ爲ス
 ヲ得ンヤ靈魂ノ體中ニ在リテ一身ヲ主宰スル
 ハ猶皇上ノ深宮ニ在リテ億兆ヲ統御シ給フガ
 如シ而シテ自ラ其靈魂ノ形狀ヲ觀察スル能ハ
 ガルハ神賦ニ出デ、幽界ニ屬スルガエエナリ
 夫人ノ此世ニ在リテ生命ヲ繋グニ寒暑ヲ凌ギ

雨露ヲ除ケ飢渴ヲ免ガル、ハ何ニ依ルヤ必ズ
 百穀万物ニ資ラザルベカラズ其綿絹ヲ以テ衣
 服ヲ製シ其水竹鐵石ヲ以テ家屋ヲ築キ其飲食
 ヲナスハ皆自己ノ力ノ致ス所ニ因レドモ其本
 原ヲ尋ヌレバ悉ク造化神ノ化育スル所ニシテ
 愛人惠民ノ神慮ノ然ラシムルニアラザルハナ
 シ造化神ノ太陽ヲシテ大地ヲ照シ万物ヲ煦育
 セシメ給フニアラズンバ粉骨碎身シテ勤勉力
 行スルト雖モ何ゾ能ク之ヲ獲ルヲ得ンヤ人ハ
 斯ノ如ク神ノ化育ニ資リテ生レ神ノ愛惠ヲ受

ケテ生活ヲナス然ルキハ生死ハ固ヨリ千事万
 物神ヲ離レテ他ニ購求スルヲ得ンヤ或人以爲
 ラク神ハ現世ヲ守ルト雖モ後世ヲ助ケズ何ゾ
 死後ヲ神ニ委託スルト論シテ曰神天地ヲ鎔造
 シ人類ヲ產生シ之ヲ成育スルニ万物ヲ以テシ
 之ヲ保安スルニ政教ヲ以テス嗟々其愛惠ノ深
 キ恩頼ノ厚キ至ラザルナク盡サバルナシ然ル
 ニ死後ノ一事ニ限リ措テ問ハザルノ理アラ
 ヤ人ニ於テスラ子ヲ生ミ之ヲ養育シテ其成長
 ヲ欲シツ、其行末ヲ顧ミザルノ情アルナシ

況ヤ至仁至慈ノ神慮ニ於テヤ此ニ由テ之ヲ
 觀レバ死後ノ一モ必ズ神ニ委託セザルベカラ
 ズ既ニ一度死生神ニ委託スルキハ縱令死ニ至
 ルノ大不幸アリト雖モ從容トシテ憂フルコトナ
 シ又既往ヲ察シ目下ヲ視テ復本反始ノ理ヲ知
 ルキハ將來モ尚昭明ニシテ恐ル、コトナシ人々
 生死ヲ神ニ委託シ死後ノ安心ヲ決定セント欲
 セバ先神慮ノ所在ヲ能窺ヒ善惡報應復本反始
 ノ真理ニ基キ而シテ己ガ日夜行フ所ノ善惡爲
 ス所ノ邪正ヲ再思三省スル最急務タリ然ルヲ

善惡報應復本反始ノ真理ヲ顧ミズ神慮ノ所在
 ヲ問ハズ猥リニ之ヲ他ニ需メントスルハ竟ニ
 水底ニ月影ヲ探ルノ比ニ非ザルヲ得ンヤ又荏
 苒歲月ヲ空過シテ將ニ臨終ノ日ニ際シ千辛万
 苦後悔シテ臍ヲ噬ムニ詮ナカルベシ天網恢々
 疎ニシテ漏サズ積善ノ家ニハ必ズ餘慶アリ積
 惡ノ家ニハ必ズ餘殃アリ尤報應ニ遲速ナキニ
 アラズト雖モ凡寔字ノ間ニアル者此理ヲ備ヘ
 ガルナレ善惡報應論ニ春夏ニ耕耘ノ艱苦ヲ凌
 ゲバ秋冬ニ至リテ必ズ豊穰ノ優樂アルハ是艱

苦ヲ凌グノ報應ニ非ズヤ是ニ反シテ春夏ニ耕
 耘ヲ厭苦シ安逸ヲ爲セバ秋冬ニ必ズ貧寒ノ困
 苦アルハ是安逸ヲ爲スノ報應ニ非ズヤ少年ノ
 時努力カスレバ老大ニ至リテ必ズ顯達ナルハ是
 努力ヲ爲スノ報應ニ非ズヤコレニ反シテ少年
 ノ時放逸ナレバ老大ニ至リテ必ズ窮賤ナルハ
 是安逸ヲ爲スノ報應ニ非ズヤトアルガ如ク一
 事一物トシテ善惡ノ報應アラザルナク善行ハ
 快樂ノ資本トナリ惡行ハ苦艱ノ種子トナル然
 レバ一箇ノ積善ハ快樂ノ幾分ヲナシ一善ノ積

惡ハ苦艱ノ幾分ヲナス塵埃モ積レバ山トナリ
 雨水モ溜レバ海トナル故ニ善ハ瑣々タルヲモ
 ナスベク惡ハ僅々タルヲモ爲ベカラズ況ヤ人
 ノ靈魂ハ神ト一躰分身ニシテ神人一致ナレバ
 人思フ所アレバ神即之ヲ知リ人行フ所アレバ
 神即之ヲ識ル故ニ人一度正心誠意ヲ凝セバ天
 地ニ貫通シ神祇ヲ感動ス古歌ニ「なまゑぞと人
 又はいひてあまぬべし」心此問は「いかゞ答へ
 む」トアル如ク平氣虚心ニテ考按スル所ハ苟已
 一善ヲ爲セバ餘ラ心ニ必ズ快ヲ覺エ已一惡ヲ

為セバ自ラ心ニ必ズ不快ヲ覺ユルハ所謂神人
 一致ナル所以ニシテ大ニ神ニ耻ッル所アレバ
 ナリ神ハ天地間顯トナク幽トナク所トシテ在
 ラザルナク時トシテ至ラザルナク事トシテ關
 ラザルナク物トシテ知ラザルナレ人ノ肺肝ヲ
 モ能照鑒シ給フナレバ惡キ事ハ決シテ爲ラレ
 又モノト知ルベシ假令人ハ何ニ欺クトモ神ハ
 聊モ欺クベカラズ行住座臥獨ヲ慎ムノ心ヲ堅
 固ニシテ人ノ睹ザル所ヲ戒メ人ノ聞カザル所
 ヲ懼レザルベカラズ幽界ヨリ顯世ヲ視ルハ猶

暗キ室ヨリ明キ間ヲ望ムガ如シ一善モ賞セザ
 ルナク一惡モ罰セザルナキハ天理ノ神理ニ造
 レテ所謂事ノ自然ニシテ神法ノ公正嚴密ナル
 所以ナリ然ルヲ耶穌教ニハ惡逆無道ノ人ト雖
 モ真神基督ヲ篤ク信ズル者ハ前罪後過ヲ赦シ
 死後天堂ニ生シ無量ノ歡樂ヲ受ケレハ是ニ反
 レテ真神基督ヲ信ゼザル片ハ縱令君ニ忠ヲ盡
 シ親ニ孝ヲ行フ者ト雖モ死後天堂ニ生ル、一
 能ハザルノミナラズ地獄ニ墮チ永ク死究ノ辛
 苦ヲ受クト云フ又佛教中ニモ是ニ髣髴タル者

アリ阿彌陀ハ正善ノ人ヲ助クルヲ本意トセス
 奸惡ノ者ヲ救フヲ本願トス故ニ一度彌陀ニ依
 頼スル時ハ強奸極惡ノ者ト雖モ忽チ既往ノ罪
 科ヲ消滅セシメ死後極樂ニ生ジ無數ノ快樂ヲ
 受ケシム是ニ反シテ彌陀ニ依頼セザル者ハ地
 獄ニ墮チ永遠無究種々ノ苦難ヲ受クト云ヘリ
 此ニ教大同小異ナキニアラスト雖モ共ニ眞教
 正道ト云フベカラズ倫理ヲ紊亂スルノ甚キ者
 ト云ハザルヲ得ンヤ此諸教ノ起原ヲ推考スル
 ニ或ハ草昧ノ世ニ教祖ノ蠢民ヲ喻サントレテ

其方土ノ言傳ニ自己ノ私說ヲ雜ヘテ作爲セシ
 モノアリ或ハ一人一己ノ臆說ヲ以テ作爲セシ
 モノアリ然リ而テ其分宗支派今日ノ如ク多岐
 ナリト雖モ其所說ノ要領トスル所ヲ推究スレ
 バ皆唯未來ノ一偏ニ止マレリ天下万人ノ且暮
 履行スベキ倫常ノ要道ニ至テハ措テ問ザルモ
 ノ、如レ實ニ天地自然ノ大道ニ非ズ所謂人作
 ノ一家教ヲ出デザルナリ是故ニ歲移リ世易ル
 ニ從テ前說ハ後說ノタメニ漸滅シ先人ノ言ハ
 後人ノ爲ニ排斥セラレ現今殆ド本說ヲ失フニ

至^イレ^ル者^モ居^ク多^クナ^リ是^レ天^地自^レ然^シノ大^道ニ非^ズ人^ニ
 作^ラノ小^道ニシ^テ造^ラ化^ノ真^理ニ適^セザ^ルモ^ノア
 ルヲ免^レザ^ルユエナ^リ唯^ク皇^國ノ大^教ハ然^ラ
 バ其^源造^化神^ノ真^理ニ出^テ天^地剖^判ノ始^ヨリ
 以^テ來^シ神^人相^承ケ相^繼キ宇^宙ノ萬^物皆^ク其^囊籥^ノ
 中^ニ在^テ須^臾モ離^レベ^カラザ^ル惟^キ神^ノ自^レ然^ノ大^道
 道^ヲナ^レバ日^本書^紀ニ惟^カ神^者ハ謂^フ隨^テ神^道亦^ク有^ク神^ノ
 化^ノ神^智ヲ以^テ道^也ト書^キセ^ル諸^教ノ比^シ非^ズ所^謂造^化神^ノ
 自^レ然^ノ神^道ニ出^テ作^ラス^ル天^然自^レ然^ノ教^ノ眞^道ナ^リ故^ニ惟^テ神^造
 フ^ル神^道ニ出^テ作^ラス^ル天^然自^レ然^ノ教^ノ眞^道ナ^リ故^ニ惟^テ神^造
 造^化ノ道^ヲ離^テハ立^コト能^ハザ^ルナ^リサ^レハ
 此^ノ

世^ニ人^トア^ル限^リハ古^今内^外ヲ論^ゼズ斯^道ニ
 由^ラザ^ルベ^カラズ此^道ヲ踐^マザ^ルベ^カラズ神^ノ
 仕^ヘテハ敬^君ニ仕^ヘテハ忠^親ニ仕^ヘテハ孝^カ
 夫^ニ仕^ヘテハ貞^兄ニ仕^ヘテハ悌^友ニ交^リテ
 ハ信^又君^トシ^テハ仁^親トシ^テハ慈^夫トシ^テハ
 義^兄トシ^テハ愛^又死^ニ事^{フル}生^ニ事^{フル}ガ如^ク
 ク幽^ニ事^{フル}顯^ニ事^{フル}カ如^ク是^レ所^謂惟^神自^レ
 然^ノ道^ニシ^テ一^日モ行^ハザ^ルベ^カラザ^ルモ^ノ
 ナ^リ又^シ治^國安^民ノ政^事モ亦^ク斯^道ニ由^ラザ^ルナ
 ク億^兆萬^人ノ營^業モ亦^ク斯^道ニ由^ラザ^ルナ^リ宇^ノ
 由^ラザ^ルベ^カラズ此^道ヲ踐^マザ^ルベ^カラズ神^ノ
 仕^ヘテハ敬^君ニ仕^ヘテハ忠^親ニ仕^ヘテハ孝^カ
 夫^ニ仕^ヘテハ貞^兄ニ仕^ヘテハ悌^友ニ交^リテ
 ハ信^又君^トシ^テハ仁^親トシ^テハ慈^夫トシ^テハ
 義^兄トシ^テハ愛^又死^ニ事^{フル}生^ニ事^{フル}ガ如^ク
 ク幽^ニ事^{フル}顯^ニ事^{フル}カ如^ク是^レ所^謂惟^神自^レ
 然^ノ道^ニシ^テ一^日モ行^ハザ^ルベ^カラザ^ルモ^ノ
 ナ^リ又^シ治^國安^民ノ政^事モ亦^ク斯^道ニ由^ラザ^ルナ
 ク億^兆萬^人ノ營^業モ亦^ク斯^道ニ由^ラザ^ルナ^リ宇^ノ

宙万類ノ斯大道ニ於ケル猶魚ノ水ニ於ケルガ
 如シ其道タルヤ公明盛大平坦直實簡ニシテ遺
 漏ナク高フシテ領解シ易シ是惟神自然ノ大道
 ニシテ人作ノ小道ニ非ザル所以ナリ但シ其教
 ニ汚隆顯晦交一ナラザルハ世ニ盛衰アリ歳ニ
 寒暑アリ日ニ晴雨アルガ如ク其教ヲ掌ルハ人
 ニ在レバ其人ヲ得ルト得ザルニ因テ自ラ汚隆
 ノ理ナキ能ハズ然レドモ造化ノ道ハ天地古今
 聊モ變易スルヲナケレバ今日我大教ノ隆盛ナ
 ラザルヲ以テ万世ノ恆ト思フベカラズ世人宜

ク此分別ヲ辨ヘ苟モ玉石相混ジ薰蕕相共ニス
 ルヲ勿レ今此諸教ニ説ク所ノ賞罰ヲ近ク顯政
 上ニ譬ヘテ云ハバ我大教ノ神法ヲ以テ善惡ヲ
 賞罰シ給フハ猶正世ニ公明ナル法律ヲ照シテ
 是非ヲ審判スルガ如ク彼諸教ノ賞罰ハ猶亂世
 ニ愛憎ヲ以テ暴政ヲ行フガ如シ又彼篤信依頼
 スルキハ惡人ト雖モ天堂極樂ニ生ジ無量ノ歡
 樂ヲ受ケレムト云フハ猶暴政ノ賄賂苞苴ヲ以
 テ囑託スル者ハ非ヲモ是トシ惡ヲモ善トシテ
 處置スルガ如シ又彼篤信依頼セザルキハ善人

ト雖モ地獄ニ墮チ先窮ノ艱苦ヲ受クト云フハ
 猶暴政ノ賄賂苞苴ヲ以テ囑託セザル者ハ是ヲ
 モ是トセズ善ヲモ善トセザルガ如シ是理ノ見
 易キモノナリ此暴政ノ不可ナルヲ知ル片ハ彼
 諸教ノ非道ナルモ亦推テ識ルベシ苟モ心魂ヲ
 備ヘ耳目在テ日月風火ヲ知ル者ハ斯道理ヲ熟
 ク辨明シ假初ニモ邪徒ニ誘レ妖教ニ陷ル勿
 レ謹デ造化大元主ノ神慮ヲ窺ヒ奉ンバ國土ヲ
 經營シ人民ヲ撫育シ人ヲシテ人タラシメ魂ヲ
 シテ神タラシメ給フノ外アラズ神ノ天地ヲ鎔

造シ人類ヲ化生シ六合ヲ照臨シ万物ヲ煦育シ
 給ヒ又國土ニ大君ヲ立テ幽界ニ主長ヲ置キ以
 テ顯幽ノ兩政ヲ總裁セシメ給フモ皆國土經營
 人ニ化育ノ神慮ニアラズシテ何ゾヤ抑神ノ天
 地ヲ鎔造シ人類ヲ化生シ彝倫ノ道ヲ創メ衣食
 住ノ根元ヲ開キ地球ヲシテ太陽ノ外郭ヲ旋轉
 セシメ以テ晝夜ノ分ヲナシ寒暑ノ度ヲ定メ四
 時行レ人民蕃息万物繁茂ナラシメ國土ノ大君
 ヲシテ天下ヲ平治シ兆民ヲ綏撫セシメ幽界ノ
 主長ヲシテ大地ノ幽事ヲ掌リ正直ヲ賞シ奸曲

ヲ罰セシメ給フノ類一モ經國育民ノ神慮ニア
 ラザルナシ縱令邪神ノ禍事アルモ其由來スル
 所ヲ考フレバ亦勸善懲惡ノ神慮ヲ出デザルナ
 リ又ハ百万神ハ皆造化大元主ノ神意ヲ體認シ
 テ經國育民ノ鴻業ヲ分掌レ給フノ大神ナレバ
 孰ノ神ヲ崇敬スルト雖モ其誠心衷情造化神ニ
 感通セザルナシ造化ノ神心ハ至誠休息アル
 ナク人民萬物ヲ生ケルテ間斷アルコトナシ故ニ
 人祈ラズト雖モ守護シ願ハズト雖モ幸福ヲ授
 ケ給フ況ヤ惟神ノ大道ニ由リ至誠眞實ヲ以テ

懇祈熱願スルニ於テヤ何等ノ事業ト雖モ成
 ラザルコトナク何等ノ困厄ト雖モ免レザルコト
 然リト雖モ神ハ聰明正直ニレテ奸曲虛妄ヲ
 憎ミ給フナレバ形ニ敬肅尊崇ヲ以テスト雖モ
 心ニ至誠眞實ナケレハ感格ナキノミナラズ却
 テ其褻瀆ヲ幽冥ニ罰シ給フベシ戒慎セザルベ
 ケンヤ況ヤ又神祇ヲ禱リテ靈驗ヲ蒙リレト古
 今其例枚擧ニ遑アラザレドモ皆能ク世人ノ知
 ル所ナレバ此ニハ言ハズ夫地ニ君主アルハ猶
 天ニ主宰アルカ如レ天ニ主宰ナキ片ハ寒暑序

ヲ愆リ風雨度ヲ失ヒ人民蕃息万物繁茂スルヲ能ハザルノミナラズ此天地万物モ皆悉ク鳥有ニナルベシ地ニ君主ナキ片ハ上下分限ナク貴賤等級ナク強ハ弱ヲ併シ賢ハ愚ヲ倒シ喧争燄ム時ナシ是天ニ主宰アリ地ニ君主アル所以ナリ然リ而シテ天ノ大主宰一神ナル片ハ地ノ大君主モ亦一人ナラザルヘカラズ地ノ君主一人ナラザル片ハ政令混雜法律齟齬兆民ノ方嚮乖亂シ天下久安長治ナルヲ能ハズ故ニ地球廣ク人民多シト雖モ我天皇ヲ除キテ他ニ造化神ヨ

リ立テシ真君ト稱スベキ者絶テアルヲナシ海外諸國ニ稱スル所ノ君主ハ皆人為ニ出デシ擬君主ニシテ真君主ニアラザレハ血統連続スルヲナク君位長久スルヲナク革命放伐以テ古今ノ常ト爲セリ我皇上ハ造化大元主ヨリ神胤一系正統連續神皇繼紹以テ數億千万歳ノ今日ニ至リ猶寶祚隆盛ナルハ實ニ造化神ノ治國平天下ノ神慮ノ然ラ令ムル所ニアラズンハ焉ゾ能スノ如ク盤古悠久ナルヲ得ンヤ天下ノ兆民我皇統ノ他ニ比スベク類スベキナキヲ以テ怪レ

ムベカラズ疑フベカラズ又我天皇ハ造化大元
 主ノ神裔ニシテ世々天照皇大神ノ正統ヲ承ケ
 繼ギ給ヒ萬國ノ億兆臣民モ亦造化神ノ造化ヲ
 出デザレバ億兆臣民ノ皇室ニ於ケル名分ヲ以
 テ云フ所ハ則君主ナリ血統ヲ以テ言フ所ハ則
 宗家ナリ故ニ天皇ニ忠ヲ盡ス所ハ祖宗ニ對シ
 テハ孝トナル又忠ト孝トハ其實ニ一ニシテ一
 ニシテ二故ニ親ニ孝ヲ行フ所ハ天皇ニ對シテ
 ハ忠トナル孝ナレバ忠其中ニ在リ忠ナレバ孝
 其中ニ存ス須臾モ離ルヘケンヤ人父母アラザ

ル所ハ生ル、一ナク造化神ノ化育アラザル所
 ハ父母生ム一能ハズ父母尊カラザルニアラス
 ト雖モ造化神ノ正統ヲ承ケ繼ギ給ヘル皇
 上ニ於テハ最モ至尊タリ宜ク皇
 上ニ忠誠ヲ盡シ父
 母ニ孝養ヲ効スベキ一勿論特ニ皇
 上ヲ无上至
 尊ト崇メ專ラ尊重セザルベカラズ是君臣ノ大
 義ヲ人道ノ最首トシテ父子ノ大倫ノ上ニ置ケ
 ル所以ナリ是ニ由リテ之ヲ觀レバ我大教ノ安
 心其要トスル所ハ忠孝ノ二ヲ出デズ然ル所ハ
 子トシテハ孝ヲ行ヒ臣トシテハ忠ヲ盡レ以テ

死後ノ安心ヲ決定スベシ然ルヲ外教ニハ唯造
 物主ノミヲ真君主トシテ國君ヲ假君主トナシ
 忠誠ヲ盡ス一厚ラザルニ至ラ令ルハ全ク皇朝
 ノ如キ天造ノ真君主ナキ所以ニシテ未ダ造化
 ノ真理天地ノ常道ヲ曉ラザルモノト云フベシ
 皇國ノ大教惟神自然ノ大道ト固ヨリ同日ノ談
 ニアラズ斯ル宇宙ニ比類ナキ獨一真君ノ統御
 ヲ受ケ古傳正ク道理明ナル御國ニ生レ暖衣飽
 食シテ生活ヲナスハ豈大幸ノ至リナラズヤ苟
 モ皇國ノ人タラム者ハ率先シテ善惡報應復本

反始ノ真理ヲ曉リ老若長幼ノ別ナク古人ノ歌
 ニ定免なき世も若きは頼みありとよもかく
 りを老比身ぞうた又とよかくに老をあまたの
 年も履つ定めなき世も若き身ぞうたトアルガ
 如ク老ハ固ヨリ若モ頼ミガタキ事ヲ覺悟シ忠
 孝ノ道ニ從事シ死ニテ遺憾ナキヤウ平素心掛
 ルヅ人ノ人タル道ニハアリケル諸君ニ忠ヲ盡
 シ父母ニ孝ヲ行ハントスルヤ先皇上帝ノ睿慮ニ
 悖ラス父母ノ素志ニ背カズ父母ヲシテ父母タ
 ラシメ皇上帝ヲシテ皇上帝タラシムルニアレバ各

自其本分ヲ守リ義務ヲ盡シ其職業ヲ勉ムルノ
 外アルベカラズ故ニ農工商ハ其業トスル所ヲ
 勤勉力行シ且暮情リナク家ノ繁榮ヲ謀リ國ノ
 富强ヲ慮ルベシ官吏ハ其委任セラル、所ノ職
 掌ヲ奮發勉強シ日夜國家億兆ノ保全ヲ策リ天
 皇陛下ノ安寧ヲ祈ルベシ又婦トシテハ夫ニ貞
 ヲ盡シ夫トシテハ婦ヲ愛シ弟トシテハ兄ニ悌
 ヲ盡シ兄トシテハ弟ヲ慈シ又卑幼トシテハ尊
 長ニ禮敬ヲ盡シ尊長トシテハ卑幼ヲ憐恕シ以
 テ各自其本分ヲ守リ義務ヲ竭シ其職業ヲ勉ム

ベシ身ノ本ハ父母ニシテ人ノ本ハ君ナレバ其
 尊長ニ禮敬ヲ盡シ兄ニ悌ヲ盡シ夫ニ貞ヲ盡ス
 ハ即テ父母ニ孝君ニ忠ナル所以ナリ又國ノ本
 ハ君ニシテ君ノ本ハ造化神ナレバ其業トスル
 所ヲ勤ノ其委任セラル、所ヲ惰ラザルハ國家
 ヲ富强ニシ皇上帝ニ忠ヲ盡ス所以ニシテ其精
 終ニ造化神ニ達スルナリ是故ニ在世間人ノ人
 タル道ヲ蹈ミ違ヘザル者ハ死ヌルヤ其靈魂忽
 チ天ニ歸リ神ノ愛憐ヲ蒙リ神通自在ニシテ生
 前ニ爲サント思フ事モ成スベク助クセント思フ

人モ救フニシ尤其忠誠功勳ノ大ナルニ至リテ
 ハ赫々タル神明ト仰ガレ永ク其隆徳ヲ千載ニ
 垂レ遠ク其盛威ヲ万国ニ輝スベシ和氣公楠公
 ノ如キ則是ナリ勉メザルベケンヤ盡サバルベ
 ケンヤ人ノ生活ヲ爲スニ飲食衣服ニ由テ飢寒
 ヲ凌グニ薄キ板戸ヲ閉テ疎キ竹垣ヲ廻シテ鐵
 郭石城ノ思ヒヲナシ安眠樂居スルモ皆神徳君
 恩ノ然ラシムル所ト知ラバ三度ノ飲食ニモ神
 徳ノ深キヲ忘レズ夜ノ寐覺ニモ君恩ノ厚キヲ
 思ヒ其恩ニ報イバンバアルベカラズ其徳ニ謝

セズンバアルベカラズ或人問テ曰我父母ヨリ
 生レ我父母ノ手ニ長ズ又我自ラ耕シテ食シ我
 自ラ汲テ飲ミ我自ラ織テ衣ル皆我カニ衣食シ
 我父母ニ生長ス何ノ所ニカ神徳君恩アルヤト
 答テ曰神ノ父母ヲシテ生マシムルニアラズン
 バ汝生ル、一能ハズ神ノ功物ヲ化生シテ之ヲ
 授クルニアラズンバ汝生長スル一能ハズ汝穀
 ヲ食セント欲スニ田ヲ耕ス一能ハズ汝水ヲ飲
 マント欲スニ井ヲ汲ム一能ハズ汝衣ヲ著ント
 欲スニ機ヲ織ル一能ハズ且國君ノ政令法律ヲ

施シテ天下ヲ平治シ給フニアラズンバ汝春夏
 = 耕耨シテ秋冬= 收穫セント欲ストモ其穀登
 ラントスル= 當リ盜賊之ヲ掠奪シ或ハ金銀器
 械ヲ貯藏シ置クト雖モ強賊之ヲ盗ミ去ラバ汝
 奈何トカスルサレバ斯憂ヲ免レ此難ヲ免ル、
 ハ神德君恩= 非ズシテ何ゾヤ是亦深ク思ハズ
 ンバアルベカラズ假令一粒ノ穀モ一滴ノ水モ
 神德ニアラズンバ飲食スルヲ得ズ一日ノ起
 居モ一夜ノ睡眠モ君恩ニアラズンバ爲スル能
 ハザレバ一旦國家緩急アルニ當リテハ人臣シタ

ル者ハ必ズ護王湊川ノ忠轍ヲ踏ミ以テ古今ノ
 沿革ヲ鑒ミ時勢ノ適宜ヲ量リ國家ノタメ罷免
 從事スベシ死ハ均レク死ナレバ縱令銃九鎗劍
 ノ下ニ斃ルトモ其本分ヲ守リ義務ヲ盡シ生キ
 テハ忠臣孝子貞婦トナリ美名ヲ万国ニ輝シ譽
 レヲ千載ニ遺シ以テ神德ニ謝シ君恩ニ報イ死
 ニテハ赫々タル神靈トナリ神通自在生前ニ爲
 シ得ザルヲモ成シ助ケ得ザル人ヲモ助ケ以
 テ無量ノ眞樂ヲ得ント豈愉快ナラズヤ是ニ反
 シテ國家ノ逆賊トナリ幽界ノ罪人トナリ汚名

ヲ内外ニ傳ヘ訛リヲ子孫ニ及スハ豈遺憾ナラ
 ズヤ故ニ世人能ク此理ヲ悟リ惟神ノ大道ヲ遵
 奉シテ妖教邪徒ニ蠱惑セラレズ善惡報應復本
 反始ノ真理ヲ辨明シ生死完全ヲ期シテ勤メズ
 ンバアルベカラズ盡サズンバアルベカラズ
 神武天皇即位紀元二千五百三十六年明治九
 年丙子第一月二十五日東京本石町ノ客舎ニ
 於テ之ヲ記ス

大教安心論概略終

明治九年四月二十九日版權免許
 明治九年八月三十一日刻成

定價拾七錢

著述者并
 出版人

田中知邦

滋賀縣近江國栗太郡
 第四區辻村平民
 東京第一大區一小區
 祝田町二番地寄留

賣弘人

東京府平民

稻田佐兵衛

第一大區六小區
 通二丁目十九番地

